



## 地域医療支援病院の病院図書館の登録医への支援

中尾 正俊

### I. はじめに

医学系の分野は、参考図書や文献検索データベース、電子ジャーナルなど情報の整備が他の分野とは比較にならないほど進んでいます。診察室や院長室にパソコンが1台あれば、インターネットにより文献検索データベースにアクセスし、日常臨床に必要な文献が容易に入手可能な状況です。そのようなインターネット環境において、地域医療支援病院の図書館を利用して、日常診療に必要な最新の医学情報をより簡単に入手可能か否かは、登録医である診療所医師にとっても非常に関心の高いテーマだと考えます。

しかし、地域医療支援病院の登録医が図書館を利用する場合、下記に示す2つの問題点があると思います。

#### 1. 手間や経費（文献検索および文献コピーにどれだけの金額が請求されるのか）

ある地域医療支援病院が設けている登録医制度実施要領において、「図書館が所蔵する図書の検索を行い、図書館担当者より検索の上ご連絡申し上げます。インターネットを利用した文献〔日本語検索（医学中央雑誌）、英語検索（MEDLINE）〕の検索が行えますのでご利用下さい。なお時間的余裕のない利用者のためには、図書室担当者が代行検索を引受けいたします」と記載されています。登録医が図書館に文献検索を依頼すると、図書館担当者によってインターネット上に無料で公開されているMEDLINEを含むPubMedという検索システム

を用いて文献の書誌情報（タイトル、著者名、雑誌名）を提供してくれるでしょう。そのシステムを活用し文献検索をしていただければ、文献検索サービスは無料で提供していただきたいと思います。そして、文献検索サービスにより提供された図書や文献をコピーする場合には、依頼した登録医が自分で有料のコピー機を利用し相応の金額を支払うことになっていることが多く、登録医の手間や経費を考えた場合、改善すべき点も多いのではないのでしょうか。

#### 2. 足労（わざわざ病院図書館まで出向かなければならないのか）

地域医療支援病院が設けている登録医制度実施要領において、登録医に対する図書館利用に関する取り決めがなされています。たとえば、「登録医が図書の閲覧を希望する際、図書館で図書の閲覧をすることができる。ただし、閲覧時間は月曜日から金曜日の午前9時から午後5時、土曜日は午前9時から午前12時までとし、日曜、祝日、年末年始（12月29日から1月3日）は除く」などとなっています。この時間帯に図書館を利用することは、午前（8時～12時）と午後（5時～8時）に外来診療を行い、昼間（午後1時～4時）に往診や訪問診療を行っている登録医にとって図書館を利用しようとする際、とてもきびしい時間帯だと思われます。もう少し登録医が利用しやすい利用時間の設定の見直しが必要と考えます。

また、地域医療支援病院の図書館が購入されている医学雑誌の目次を、病院から登録医へファクスで送付し提供してくれるサービス、あるいは、登録医が送付された「目次一覧表」を

みて、希望する文献をチェックして図書館宛にファクスで申し込むと図書館担当員がコピー(有料ですが)をしてくれて診療所に郵送してくれるサービスは、非常に評価できるサービスと思われまし、全ての地域医療支援病院の図書館に拡大していただきたいサービスだと思っております。これは、登録医にとって自分の専門領域以外の分野の雑誌をわざわざ購入しなくても良くて、病院まで出向かなくて良い点があるからです。

## II. 登録医の先生方の医学情報入手の現状

登録医である診療所医師が最新の医学情報入手する現状はどうでしょうか。おそらく登録医が一番多く利用する医学情報の入手手段は、登録医自身が所属している学会や所属医師会の研修会に出席することから得られる手段でしょう。そこで、得られた最新医学情報に基づいて、日常診療に使っておられることが考えられます。

次に、それぞれの製薬会社主催の新承認された薬剤に関する講演会に出席されたり、担当MRから医薬品情報を提供されたりして、日常診療に役立てておられることが考えられます。例えば、2011年に相次いで発売された認知症進行抑制に効果がある薬剤などがそれにあたるのではないのでしょうか。そして、自分で医学書、学会雑誌や商業医学雑誌を購入し、雑誌に掲載されている特集や症例報告を読まれて、医学情報入手されていることと思います。以前に比べて少なくなったと思われまし、診療所に訪問する製薬会社のMRに日常診療において関心のある領域に関する文献検索を依頼し、無料で医学情報を提供していただくこともあります。

最後に、コンピュータに精通した若い医師がインターネットを用いて自分自身で行う文献検索(m3.comのホームページからPubMedを介してMEDLINEへアクセス、医中誌Webへアクセス、専門学会のサイトへのアクセス、メーリングリストへの加入)があります。

MEDLINEとは、米国国立医学図書館が作成

している医学分野の代表的な文献情報データベースです。このMEDLINEでは、世界約80カ国、5,200誌以上の雑誌に掲載された文献情報が検索可能で、1997年よりMEDLINEを含むPubMed(<http://www.ncbi.nlm.nih.gov/pubmed/>)という検索システムをインターネット上に無料で公開されています。医学用語や著者、雑誌名などのキーワードを手がかりに、文献の書誌情報(タイトル、著者名、雑誌名)や抄録を調べることができます。

医中誌(医学中央雑誌)Web(<http://www.jamas.or.jp/>)とは、NPO医学中央雑誌刊行会が作成する国内医学論文情報データベースで、大学、病院・企業など、法人を対象としたサービスです。国内の医学雑誌をはじめ、学会誌・研究報告など約2,900誌、約760万件の文献が収録されています。診療所医師が個人で文献を検索する場合は有料で医中誌パーソナルWebにアクセスすることになります。

日本医師会は、2011年9月16日付で「診療所医師のための医学情報と診療に関する調査」を実施しており、地域医療提供体制における診療所の役割に期待が集まっている中、全国の診療所医師がどのような形で最新の医学情報入手しているかを把握することを目的としています。調査期間は2011年9月27日から10月12日までで、12月13日に調査結果が公表されました。

この調査結果によると、診療所医師が日常診療に必要な最新の医学情報入手する際、「日常診療で多忙なため情報を得る時間がない」や「必要な情報がどこにあるのかわからない」などが課題としてあげられています。また、たとえ情報を得られたとしても「情報が多くて取捨選択できない」と考えている診療所医師が多いのではないかと考えられます。

このような課題を解決するために地域医療支援病院の図書館は、日常診療で多忙な登録医にとって、真に必要な最新医学情報の入手のお手伝いをするに尽きると考えられます。図書館

が文献検索において登録医が必要かつ十分な条件（手間をかけずに適切な代金で、必要な情報を迅速に）を満たしてくれるサービスを提供してくれることを希望しています。

### Ⅲ. 地域医療支援病院の病院図書館のあるべき姿

二次医療圏で承認されている地域医療支援病院を表1に示します。

医療圏ごとに多寡がありますが、特に豊能医療圏では充実していますが、大阪市西部では整備が不十分であり、福島区の厚生年金病院に負担がかかることが予想されます。地域医療支援病院には、地域の医療従事者の資質向上を図るための体制が整備されており、果たすべき役割として地域医療連携に関する情報提供センター機能を有することがあげられており、医療法において地域医療支援病院には病院図書館の設

置が義務化されています。そして、病院機能評価においても図書館に関する項目があり、地域医療支援病院の情報センターとして図書館は重要な位置を占めていると思います。しかし、あくまで図書館の設置は各病院の裁量に任されているため、全ての地域医療支援病院に必要な医療情報を有する図書館が整備されているかというところではありません。各病院にはそれぞれの事情があり全ての地域医療支援病院にそのような機能を期待することには無理があるのも当然かもしれません。

しかし、そのような状況であっても地域医療支援病院には必ず図書館が設置されており、図書館担当者（図書館司書など）が常置されていれば、インターネットを利用した文献（日本語検索の場合は医学中央雑誌、英語検索であればMEDLINE）の検索を行うことが可能です。日

大阪市内の地域医療支援病院承認施設一覧

ブロック	施設名称	施設所在地	承認年月日
1 豊能	市立池田病院	池田市	平成 21 年 11 月 30 日
	箕面市立病院	箕面市	平成 22 年 11 月 19 日
	市立豊中病院	豊中市	平成 22 年 11 月 19 日
	社会福祉法人恩賜財団 大阪府済生会吹田病院	吹田市	平成 21 年 11 月 30 日
2 三島	医療法人愛仁会 高槻病院	高槻市	平成 17 年 12 月 28 日
	医療法人仙養会 北摂総合病院	高槻市	平成 20 年 11 月 21 日
3 北河内	星ヶ丘厚生年金病院	枚方市	平成 19 年 12 月 28 日
	パナソニック健康保険組合 松下記念病院	守口市	平成 21 年 11 月 30 日
4 中河内	医療法人若弘会 若草第一病院	東大阪市	平成 18 年 12 月 28 日
5 南河内	独立行政法人国立病院機構 大阪南医療センター	河内長野市	平成 20 年 11 月 21 日
6 堺市	医療法人ベガサス 馬場記念病院	堺市	平成 15 年 2 月 28 日
	社会医療法人生長会 ベルランド総合病院	堺市	平成 20 年 11 月 21 日※
7 泉州	社会医療法人生長会 府中病院	和泉市	平成 19 年 12 月 28 日
	市立岸和田市民病院	岸和田市	平成 22 年 11 月 19 日
8 大阪市北部	財団法人田附興風会医学研究所 北野病院	大阪市北区	平成 21 年 11 月 30 日
	大阪市立総合医療センター	大阪市都島区	平成 21 年 11 月 30 日
	宗教法人在日本南プレスビテリアンミッション 淀川キリスト教病院	大阪市東淀川区	平成 17 年 12 月 28 日
9 大阪市西部	大阪厚生年金病院	大阪市福島区	平成 19 年 12 月 28 日
10 大阪市東部	独立行政法人国立病院機構 大阪医療センター	大阪市中央区	平成 20 年 11 月 21 日
	大阪赤十字病院	大阪市天王寺区	平成 21 年 11 月 30 日
	財団法人大阪府警察協会 大阪警察病院	大阪市天王寺区	平成 22 年 11 月 19 日
11 大阪市南部	大阪府立急性期・総合医療センター	大阪市住吉区	平成 20 年 11 月 21 日
	医療法人橘会 東住吉森本病院	大阪市東住吉区	平成 15 年 2 月 28 日

※ 承認要件変更のための再承認

常診療に多忙で時間的余裕のない登録医にとって、図書館担当者が文献検索の代行業務を引き受けてくれ、必要な文献をコピーしてくれることにより必要な医学情報を簡単に入手できる窓口的な存在になってくれることを期待しています。

#### IV. おわりに

地域医療支援病院の登録医が積極的に病院の図書館を利用することで、たとえ身近に医療の情報源を持たなくても、エビデンスの高い最新の医学情報を得ることができます。図書館担当者には、医学分野の恵まれたツールを使いこなし、他の図書館とのネットワークを駆使するこ

とにより、患者さんがより良い医療を受けることができるよう、登録医のみならず看護師をはじめとする医療従事者に必要な医学情報を届けることを使命として頑張っていたきたいと思います。

また、登録医が文献検索や図書閲覧などで図書館を頻回に利用されることになれば、病院図書館は質的にも量的にもレベルアップすることが期待されます。登録医が利用しやすい図書館になることは、医師自身の充実に繋がり、ひいては国民全体がより良い医療を受けることに繋がると考えており、図書館および図書館担当者は、それを目指して日々頑張っていたいただくことを願っております。